

南阿蘇村の公園に到着したオスプレイから救援物資を運び出す自衛隊員



オスプレイで物資輸送 反対の声も



日本の災害支援で初投入 安全性のアピール狙いか

熊本県を中心に相次ぐ地震の被災者支援として、米軍普天間飛行場（沖縄県）所属の新型輸送機MV22オスプレイ2機が18日、熊本県南阿蘇村に水や食料などの救援物資約20トンを輸送した。日本の災害支援にオスプレイが投入されるのは初めて。オスプレイは17日、普天間から岩国基地（山口県）に着。飛来した4機のうち2機が18日午後3時半ごろから、同基地を離陸し、陸自高遊原分屯地（熊本県）で物資を積み込んだ後、同5時すぎ、南阿蘇村に着陸した。オスプレイはきょう19日以降も岩国基地を拠点に、熊本県内の物資集積所から被災地に輸送を行う。陸上自衛隊は2019年度からオスプレイ17機を順次配備予定しているが、日本国内

に根強く残る安全性への懸念を払しょくしたいとの思惑がある。軍事ジャーナリスト前田哲男氏は「日米両政府は熊本での地震を絶好の機会と受け止めたのではないか。安全性の論争が続いている中で、投入に「つくられたストーリー」と批判した。批判ジャーナリスト前田哲男氏は「日米両政府は熊本での地震を絶好の機会と受け止めたのではないか。安全性の論争が続いている中で、投入に「つくられたストーリー」と批判した。」

72時間の壁 阪神・淡路大震災で救出された人の生存率が3日を境に激減したことから言われるようになった。家屋などの下敷きになった場合、脱水症状や低体温症で生存率が下がるとされる